

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人水戸市芸術振興財団	
施設名	水戸芸術館	
内定額	27,781	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		305	305
年間事業本数（※1）	主催事業	88	98
	公演事業	38	44
	（内、本助成対象事業本数）	15	24
	人材養成事業	8	13
	（内、本助成対象事業本数）	7	9
	普及啓発事業	16	15
	（内、本助成対象事業本数）	11	11
	その他 内容： 地域協力事業	26	26
貸館日数	ホールごとの貸館日数	0	0
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	59,027	73,018
	公演事業	24,752	23,819
	人材養成事業	2,086	5,552
	普及啓発事業	18,677	16,287
	その他 内容： 地域協力事業	13,512	27,360
	貸館事業入場者・参加者数	0	0
	その他 内容： 地域協力事業	19,375	27,360
	計	78,402	100,378
施設の利用率(%)		49.1%	51.3%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合(※4)	その他
令和5年度	主催公演(※1)	43	82	24,752	80.6%	7	26		9			1
	共催・提携公演(※2)	18	26	13,925	72.0%	1	12		2			3
	貸館公演(※3)	0	0	0								
	計	61	108	38,677								
令和6年度	主催公演(※1)	44	76	23,819	69.0%	10	25		9			
	共催・提携公演(※2)	26	30	27,360	79.4%	1	15		2		6	2
	貸館公演(※3)	0	0	0	0.0%							
	計	70	106	51,179								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

- 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場者 率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	【専属楽団①】水戸室内管弦楽団 定期演奏会 & 子どものための音楽会	目標 値	4,600	94.3%	来場者(定期演奏会)の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階と回答した人が95%以上	99.8%	入場者率、満足度の目標達成率は100%以上、それ以外の指標の目標達成率は80%(批評掲載数)と94%(有料入場者数)であり、改善の余地はあるが、想定通りの成果を収めることができた。		子どものための音楽会は非公開のため、有料入場者数の計算から除外した。
		実績 値	5,385	110.3%	専門家による批評掲載数	掲載5本以上で概ね高評価	4本の批評が掲載され、高評価を得た。			
公-02	【専属楽団②】新ダヴィッド同盟 第7回演奏会	目標 値	600	96.8%	来場者の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階と回答した人が95%以上	100%	同公演に先立って開催した「第34回吉田秀和賞」贈呈式の出席者を招待した為に有料入場者率が下がった。批評の掲載数が目標値に達しなかったが、水戸まで評論家や専門家に足を運んでもらうための方策を講じていきたい。		
		実績 値	665	107.3%	専門家による批評掲載数(同楽団の東京公演を含む)	掲載2本以上で概ね高評価	1本の批評が掲載され、高評価を得た。			
公-03	【専属楽団③】カルテットAT水戸 第2回演奏会 & 地域活性化事業	目標 値	550	71.4%	来場者の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階と回答した人が95%以上	100%	演奏会とアウトリーチ公演の参加者数を合算した入場者数は目標値を上回ることができたが、演奏会のみ入場者数は、目標値に対して70.8%の達成率であった。弦楽四重奏というジャンルの集客の難しさを再認識するが、一層の入場者数の拡大に努めたい。		アウトリーチ公演は非公開のため、有料入場者数の計算から除外した。
		実績 値	558	72.5%						
公-05	【オリジナル企画】ルイジ・ノーノの 肖像／鈴木優人「J.S.バッハをとりまく音楽」	目標 値	750	67.7%	来場者の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階と回答した人が90%以上	100%	ルイジ・ノーノという第二次大戦後の前衛作曲家の電子音楽や室内楽を含む2企画であったにも関わらず、来場者の満足度が100%という評価をいただき、もう一つのJ.S.バッハ企画と共に難解な現代音楽でも、その本質を聴衆に伝える公演とすることができた。		
		実績 値	788	71.1%						
公-07	【プロデュース公演】新しいシェイクスピア劇の創造事業	目標 値	1,250	77.6%	来場者の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階と回答した人が90%以上	94%	来客の満足度は、古典劇を久しぶりに上演した割には94%という高い評価をいただいた。また初来場者が32%という高い数字が出たことは、観客の新規開拓ができたと考える。今後の課題は集客力にある。		
		実績 値	755	46.9%	初来場者の割合	アンケートにて10%以上	32%			
公-08	【プロデュース公演】ACM劇場＋ 深作組 <ドイツ、ヒロインの物語>	目標 値	500	77.6%	来場者の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階と回答した人が90%以上	93%	題材がイプセンの名作をドイツの現代劇に翻訳し、さらに現代の日本の能舞台上で上演するという新しい試みであったが、数字的に十分な評価と新規開拓に繋がった。		
		実績 値	477	74.1%	初来場者の割合	アンケートにて10%以上	56%			
公-09	【専属劇団】ACMファミリーシアター	目標 値	1,200	77.5%	来場者の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階と回答した人が90%以上	96%	ファミリー層に対する演目であり、公演実施に対して高い評価は当然のものと考えているが、集客が思うようにいっていない点があり、今後の課題と言える。		
		実績 値	992	64.1%						
公-10	【専属劇団】「ゆうくんとマツトさん」 新作公演とおはなしキャリアボックス	目標 値	1,260	81.4%	来場者の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階と回答した人が90%以上	99%	未就学児とその家族に対する公演という対象を明確にして実施しており、年間の公演事業のなかでも取り分け高い実績値が出た。近隣の幼稚園や施設に積極的にアピールした成果がダイレクトに反映できた。		追加公演あり。おはなしキャリアボックス入場者数(12回のべ570人)は含まない。
		実績 値	1,439	93.0%						

[illegible]

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	●専属楽団、専属劇団の年間公演回数	●30回以上(専属楽団6回、専属劇団24回)	●27回(専属楽団7回、専属劇団20回) 【専属楽団】 ・水戸室内管弦楽団:4公演 ・新ダヴィッド同盟:2公演(東京公演含む) ・カルテットAT水戸:1公演 【専属劇団(プロデュース公演含)】 ・ACMファミリーシアター:6公演 ・ゆうくんとマツさん演劇公演:7公演 ・新しいシェイクスピアの創造事業:5公演 ・ACM劇場+深作組:2公演	●専属楽団の活動では、本拠地である水戸芸術館での公演に加えて、令和6年度は新ダヴィッド同盟が、東京・紀尾井ホールでの館外公演を実施したことにより、目標値を上回ることができた。専属劇団の活動では、地域の未就学の子どもとその家族、小学生以上の就学児とそのファミリーを対象とした公演を継続的に実施できている。また劇団員は、公演事業の各プロデュース公演にメインのキャストとして出演しており、地域に居住し地域に根ざして活動する演劇の実演家として、評価している。深作組との連携制作公演にも専属劇団員の出演があり、活動が多岐に渡った。		
	○公演事業への来場者満足度	○全公演事業の9割で、来場者満足度の目標を達成	○全公演事業の10割で、来場者満足度の目標を達成(9事業中9公演)	○より一層集客に力を入れなくてはならない公演もあるが、すべての公演事業において、来場者に満足のできる芸術的な鑑賞体験を提供することができた。このことは、高水準の創造性・企画性をもった事業展開が実現できていることの証左であると捉えている。		
人材養成事業	●人材養成事業への参加者(育成者)数	●6事業中5事業で目標参加者数を上回る 総育成者数286人以上	●6事業中4事業で目標参加者数を上回った。 総育成者数267人 人01MCOセミナー 110人→159人 人02市民オルガン講座 20人→28人 人03名手・名歌手たち 35人→37人 人04未来サポート 1人→1人 人05リーディング 30人→7人 人06子どもミュージカル 90人→35人	●目標の5事業には届かず、4事業で目標参加者数を上回った。総参加者(育成者)数の合計も93.4%の達成率で、完全な目標達成とは言えないが、概ねの成果を認めることができる。人06水戸子どもミュージカルスクールについては、コロナ禍により激減していた受講生数が、まだ回復するにいたってない。今後は、参加者を促す短期のワークショップを取り入れるなどして、引き続き地域の子どもたちの舞台活動を支援するスクールを継続していく。		
	○人材養成事業の参加者のプログラム終了後の反応	○アンケートの5段階評価で上位2段階と回答した人が90%以上	○100% (内訳)音楽部門事業100% 演劇部門事業100%	○すべての人材養成事業で、参加者の満足度が100%に到達しており、トップレベルの講師陣を配し、水準の高い人材養成プログラムが実施できている。		
普及啓発事業	●普及啓発事業への参加者数	●6事業中5事業で目標参加者数を達成、 総参加者者数15,250人以上	●6事業中2事業で目標参加者数を上回った。 総参加者数13,497人 普01中学生鑑賞会 2,500人→2,045人 普02オルガン鑑賞 5,600人→4,762人 普03 300人の《第九》3,800人→3,666人 普04朗読スタジオ 490人→549人 普05小学生鑑賞会 2,650人→2,215人 普06地域交流プログラム 210人→260人	●水戸市内の全市立小学校4年生を対象とする「小学生のための演劇鑑賞会」および全市立中学高1年生を対象とする「中学生のための音楽鑑賞会」の参加者目標値を、実態より多く設定してしまった。それ以外の目標値に達成できなかった2事業(オルガン鑑賞プログラム、300人の《第九》)については、それぞれ目標値の85%と96%であり、概ね目標値に近い成果を残すことができたと評価する。		
	○参加者の反応	○アンケートの5段階評価で上位2段階と回答した人が90%以上	○94.7% (内訳)音楽部門事業94.2% 演劇部門事業95.5%	○音楽部門事業、演劇部門事業ともに目標値を大きく上回る成果を残すことができた。普及啓発事業は、中学校単位、小学校単位で参加する公演もあり、必ずしも芸術に興味を持つわけではない児童・生徒も鑑賞するのだが、そのような条件下でも高い満足度を得ることができ、参加対象に相応しい内容の設定に加えて、高水準の事業展開が実施できている。		

●公01専属楽団・水戸室内管弦楽団 ・現代を代表するピアニストであるマルタ・アルゲリッチ氏は、当初は小澤征爾前館長との厚い信頼と友情によって水戸室内管弦楽団のステージに立つてくれたが、小澤が指揮をできなくなった2018年以降も、水戸室内管弦楽団との演奏に大きな芸術上の意義を認めて出演を重ね、第113回定期演奏会では、6度目の共演となった。 ・第114回定期演奏会では、マリオ・プルネロ(指揮・チェロ)との共演で、ナチスの迫害を受けたポーランド出身の作曲家・ヴァインベルクの再評価につながる演奏を行い、市民や専門家の注目を集めた。 ・楽団の活動(定期演奏会、子どものための音楽会、実技レッスン)が、新聞・雑誌の演奏会評の掲載に加え、NHKのテレビ放送(全7番組)で紹介された。 主なテレビ放送: 2025.1.20(月) 茨城県域「いば6」 18:10～(MCO公開レッスン&ミニコンサート)／ 2.3(月) 茨城県域「ニュース」12:15～12:20／ 2.7(金) NHK茨城スペシャル19:30～19:57「その音色はいまもそばに～小澤征爾さんが残したもの～」／ 2.21(金) 関東甲信越「おはよう首都圏」7:45～8:00(うち5分程度)／3.25(火) 全国放送「おはよう日本」5時台「その音色はいまもそばに～小澤征爾さんが残したもの～」の短縮版。
●公02専属楽団・新ダヴィッド同盟:12月1日(日)に紀尾井ホールでの東京公演は、演奏水準の高さからNHKによりテレビ収録され、2月12日(水)の「クラシック倶楽部」で放映され、まさに水戸からの発信を体現することができた。
●公06ルイジ・ノーノの肖像:第二次大戦後の重要な前衛作曲家であるにもかかわらず、わが国では演奏会の非常に少ないノーノの作品をアルディッチィ四重奏団等の質の高い演奏で紹介できた。また、片山杜秀館長のナビゲート(プログラム解説および曲間のトーク)により、ノーノが作品に反映させた社会・政治思想がいかなるもので、それがどのような時代・社会背景から生じたのかを分かりやすく聴衆に伝えることができた。
●公演07新しいシェイクスピア劇の創造事業において、劇場の普及啓発事業そして人材養成事業を経験、参画してきた地域の子どもたちが、アンサンブルとして出演するなど、事業間での地元人材のサイクルが始まっている。今後も、こうした人材の動きを意識したキャスティング、スタッフィングをしていく方向性を確認できた。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
外国人アーティストの招聘者数(対象外事業を含む)	25人以上	31人 (内訳) 水戸室内管弦楽団 第113回:8人(M.アルゲリッチ[pf]、R.バボラーク[cond]、P.トーンデュル[ob]他) 水戸室内管弦楽団 第114会:6人(M.ブルネロ[vc]、R.モラレス[col]、S.カレドゥ[n]他) 新ダヴィッド同盟:1人(S.イッサーリス[vc]) ノーノの肖像:4人(アルディッティ四重奏団) サイトウ・キネン・オーケストラ ブラス・アンサンブル:6人(G.タルコヴィ[trp]、J.シュトレッカー[trb]他) その他の室内楽・リサイタル公演等:5人(S.ジャコー[n]、R.ブレハッチ[pf]、B.アラール[org]他)	目標値を上回る外国人演奏家を招聘することができ、人的交流や情報交換を通して国際交流を行うことができた。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

●現代を代表するピアニストの一人であるマルタ・アルゲリッチ氏は、水戸芸術館第2代館長・小澤征爾との信頼関係の下、平成29年から水戸室内管弦楽団の公演に出演を重ねており、令和6年の第113回定期演奏会で、6度目の共演となった。アルゲリッチ氏は、室内楽的に演奏家同志が音を聴き合って、繊細で生き生きとしたアンサンブルを創り上げる水戸室内管弦楽団との共演に大きな価値を見い出してくれている。この稀代のピアニストの言説や共演実績は、水戸室内管弦楽団の国際的な評価の向上に大きな役割を果たしている。
●マルタ・アルゲリッチ氏以外にも、水戸室内管弦楽団に参加した外国人演奏家、とりわけ楽団のレギュラーメンバー(ラデク・バボラーク[元ベルリン・フィル首席、ホルン奏者]、フィリップ・トーンデュル[フィラデルフィア管弦楽団、オーボエ奏者]、リカルド・モラレス[フィラデルフィア管弦楽団、クラリネット奏者]、セバスチャン・ジャコー[元ベルリン・フィル、フルート奏者])は、当楽団の活動を欧米各地の活動拠点で広く紹介するスポークスマン的な役割を果たしてくれており、楽団の国際プレゼンスの向上に寄与してくれている。
●アルディッティ弦楽四重奏団は、同時代の作品をレパートリーとする弦楽四重奏団として、世界の頂点に君臨する楽団であるが、水戸芸術館では、オリジナル企画「作曲家の肖像」シリーズなどで、継続的に招聘を行ってきており、本年度の「ノーノの肖像」公演で、7度目の出演となった。平成29年の「ラッヘンマンの肖像」では、カルテットの主宰者のアーヴィン・アルディッティ氏との縁もあり、今日の若い作曲家たちに絶大な影響力をもつドイツ人作曲家ヘルムート・ラッヘンマン氏の水戸公演のためだけの来日を実現することができた。アルゲリッチ氏同様、アルディッティ四重奏団の水戸芸術館に関するヨーロッパにおける言及や水戸での公演実績は、水戸芸術館の国際的な評価の向上に大きな役割を果たしている。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
●当館で開催する水戸市民芸術祭への市民文化団体の参画数、参加者数(対象事業外)	●46団体、570人以上	●84団体、1,121人 (市民音楽会、合唱フェスティバル、交響楽演奏会、演劇フェスティバル、謡と仕舞の会など8事業を開催。)	●令和5年度の実績をもとに目標値を定めたが、令和6年度は前年度の事業を全て実施したことに加え、新たに32団体、482人が参加する「合唱フェスティバル」を開催したことにより、目標値を上回ることができた。この結果に甘んじることなく、より多くの市民参加の機会提供に努めたい。		
○子ども対象事業の参加率	○全ての事業で目標人数を上回る参加者を得る	○対象11事業中6事業で目標人数を上回った。 公01：MCO子ども音楽会 2,400人→2,902人 公09：ファミリーシアター 600人→372人 公10：ゆうくんとマツさん 600人→828人 人01：MCOセミナー 110人→159人 人06：ミュージカルスクール 90 人→35人 普01：中学生音楽鑑賞会 2,500人→2,045人 普02：0歳オルガン 450人→520人 オルガン見学会 1,300人→1,064人 普06：朗読内子どもWS 20人→27人 普07：小学生演劇鑑賞会 2,650人→2,053人 普08：地域交流P内子ども向け 40人→75人	○「中学生音楽鑑賞会」と「小学生演劇鑑賞会」は、水戸市内のすべての中学1年生および小学4年生を対象としているため、目標値は在籍生徒数となるがその実態把握が不十分であるために実績値が目標値に満たない結果となった。それ以外の目標値に達していない3事業については、参加者を増やすための更なる努力が必要と考える。		
◆水戸芸術友会の会(メンバーズ)の会員数	◆前年度実績より10%増	◆5.1%減 令和5年度2,140人 (R6.3.31現在) 令和6年度2,031人 (R7.3.31現在)	◆水戸室内管弦楽団の公演の優先予約の特典を得るために入会する人が多いのだが、令和5年度の水戸室内管弦楽団とアルゲリッチ氏の公演は当館のみの公演であったために、新規入会が400人近くあった。一方、令和6年度の水戸室内管弦楽団とアルゲリッチ氏の公演は、当館に加え、東京オペラシティでの公演(主催:アルゲリッチ芸術振興財団)も開催した為、新規入会者数が減り、前年度に入会されて更新せずに退会された数が増え、前年度より会員数が現状する結果となった。多くの市民にとって一層魅力のある事業を展開することで、会員数の拡大に努めたい。		
◇シビックプライドの醸成	◇「地域や水戸芸術館に愛着や誇りを感じる」と回答する人が70%以上 (水戸市文化交流課による「令和6年度 水戸芸術館利用者アンケート」より)	◇93.4%(「とても感じる 61.8%」「感じる 31.6%」の合計値)	◇市民が出生地や居住地に愛着をもつのはごく自然のことであるので、今後、シビックプライドの醸成を評価するためには同アンケートの「とても感じる」という項目の数値に絞る方が妥当であると考える。この場合の令和6年度の数値は61.8%であり、当館の活動においても更なる努力が必要であると考える。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

●公01専属楽団・水戸室内管弦楽団「子どものための音楽会」:水戸市内の体育館「リリーアリーナMITO」で、水戸市及び近郊の小学5年生2,902人に水戸室内管弦楽団(指揮・チェロ独奏:マリオ・ブルネロ)の演奏を聴いていただいた。参加者の中には茨城県立盲学校、茨城県立水戸特別支援学校、茨城県立水戸飯富特別支援学校の児童・関係者53人を含んでいる。
●人02市民のためのオルガン講座:平成28年度開催の本講座の実技レッスンを受講した水戸市立小学校に通う小学4年生の男子児童が、本講座の受講をきっかけにプロのオルガニストになることを決意した。その後も継続的に本講座を受講し(本年度は「演奏家育成コース」)、令和7年3月に見事に東京藝術大学オルガン科に合格し、オルガニストへの道を切り拓いた。
●人04茨城の名手・名歌手たち:茨城県にゆかりの才能豊かな音楽家を発掘・紹介することを目指し、オーディションに合格した演奏家たちが集って演奏会を開催する事業であるが、本年度は9組の出演者を迎えたが、その中の2名は過去に「水戸室内管弦楽団メンバーによる器楽セミナー」を受講した(平成26年、令和元年)管楽器奏者たちで、当館での演奏家育成プログラムが有機的に連関して成果を出している。
●普01中学生のための音楽鑑賞会 ●普02小学生のための演劇鑑賞会:音楽鑑賞会は水戸市の全中学1年生(2,045名)、演劇鑑賞会は水戸市の小学4年生(2,215名)を招いて実施した。上述の水戸室内管弦楽団「子どものための音楽会」と共に、児童生徒への芸術鑑賞の機会提供を積極的に行っている。
●普02オルガン鑑賞プログラム:水戸市でも少子化対策が重要課題となっているが、子育て世代にとって魅力あるまちづくりに寄与すべく、0歳児からクラシック音楽に触れていただく「0歳からのわくわくオルガンコンサート(令和6年度入場者数520名)、幼稚園や保育園単位で参加していただく「幼児のためのオルガン見学会(令和6年度参加者数1,064名)」を実施している。
●普04水戸の街に響け！300人の《第九》:一般公募による合唱参加者が、およそ3カ月間の練習を経て、水戸芸術館広場でベートーヴェンの交響曲第9番の第4楽章を歌い上げる企画。令和6年度はこの合唱団に10歳から90歳の方まで328名が参加してくれた。ベートーヴェンが人類の連帯と平和の理想を願った《第九》を題材に、老若男女が歌声を合わせる、地域のコミュニティの創生が実現できている。
●普06朗読スタジオの子ども対象のリーディングを設けたことで、通常のスタジオの受講生の子どもや孫が朗読のレクチャーを受けるなど、多世代に亘るプログラムを実現できた。こうした親子、孫との参加で楽しめる交流プログラムが地域から望まれていることが認識でき、今後のプログラムにも反映することになっている。
●普08地域交流プログラムでは、平日の放課後の時間を劇場ほかの水戸芸術館の空間で、実演芸術を中心に地域の子どもたちが体験するメニューを作ることができており、学校や習いごとになかなかなじむことが出来ない子どもたちに、ストレスを感じることがなく過ごすことのできる場所として認識してもらえた。

評価項目④: 多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
●若年層に向けた事業数と来場者者数(対象外事業を含む)	●子ども料金もしくはU-25料金を設定している公演事業数18事業、入場者数2,650人以上	●18事業、入場者数2,325人 公01:MCO114 80人→60人 公02:新ダヴィッド同盟 20人→12人 公03:カルテットATM 20人→15人 公05:ノーノの肖像 25人→13人 公05:鈴木優人/バツハ 25人→20人 公07:シェイクスピアの旅芸人 250人→263人 公08:深作組 100人→102人 公09:ファミリー・シアター 600人→372人 公10:ゆうくんとマツトさん 600人→814人 人04:未来サポート 50人→92人 人05:リーディング・プロジェクト 50人→61人 普02:0歳オルガン 500人→220人 ・S.ジャコー & 吉野直子 20人→25人 ・B.アラール オルガン 10人→7人 ・檜本大進 & Rプレハッチ 100人→60人 ・SKOプラス 130人→149人 ・小菅優 ソナタの祭典 20人→11人 ・クリスマス・コンサート 50人→29人	●目標事業数と同じ18事業を対象にすることができたが、目標人数に達した事業は18事業中7事業、目標値より325人少ない結果となり、大いなる改善が必要であると評価する。25歳以下の入場者を対象に料金の割引を行うU-25チケットの制度の周知が不十分であると考えられ、一層の広報に努めたい。また将来の観客として、高校生以下の子どもたちに対する割引料金は、別に設定することなどの検討に入っている。		
○特別支援学校および福祉施設在籍者に向けた事業数と利用者数(対象外事業を含む)	○3事業、2,810人以上	○3事業、3,148人 公01:MCO子ども音楽会 2,400人→2,902人 公03:カルテットATM 150人→203人 ・いきいき出前講座 (障がい者施設) 20人→13人 (高齢者施設) 40人→30人	○目標事業数と同じ3事業を実施することができ、また実績人数も112%の達成率で、目標を達成することができたと評価する。ただし、MCO子ども音楽会の入場者のうちの福祉施設在籍者は53人とどまっており、より多くの福祉施設在籍者を迎えられるように努めていきたい。		
◆子育て世代に向けた事業の来場者数	◆4事業、1,830人以上	◆4事業、1,817人 公09:ファミリー・シアター 480人→637人 公10:ゆうくんとマツトさん 840人→643人 普02:0歳オルガン 500人→520人 普08:地域交流プログラム親子WS 10人→17人	◆目標人数に対して99.3%で達成率で、完全とはいえないが、概ね目標値を達成したと評価できる。しかし、少子化対策に連なる子育て世代を対象とする事業展開は、水戸市をはじめ多くのステークホルダーから要請されるものであり、今後はより事業規模を拡大させていく必要があると捉えている。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

●公03専属楽団・カルテットAT水戸:水戸芸術館での第2回演奏会に開催に加え、7月11日(木)に社会福祉法人ユニーアイ村を訪問し、高齢者、障がい者、保育園児、合計203人に演奏を届けた。
●「プログラムの多様さ」の実践として、音楽部門では次の通り、子どもたちの発達段階に応じたきめの細かい音楽鑑賞プログラムを市民に提供している。 ・普02 0歳からのオルガン・コンサート(0歳以上)／幼児のためのオルガン見学会(幼稚園・保育園児) ・公01水戸室内管弦楽団子どものための音楽会(小学5年生) ・普01中学生のための音楽鑑賞会(中学1年生)
●シェイクスピア作品をプロデュース公演として実施するなかで、茨城県の高校演劇連盟と今後のプロデュース作品上演の際に、観劇、演出家や俳優のワークショップ、翻訳家による鑑賞講座を高校生の部活と並行して実施することとなった。地域の劇場として、演劇を実践する高校生や部顧問との交流を通し、将来の観客、実践者の育成とアクセシビリティの向上を目指している。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	令和5年度実績 受取寄付金:3,169万円 助成金:5,007万円 協賛金:154万円	各種助成金について、その助成目的に応じて、当該公演の目的と対象を検討し、一層の獲得に努める	令和6年度実績 受取寄付金:3,275万円 助成金:4,560万円 協賛金:106万円	十分な寄付金等を確保できている。今後も継続して同等の額を確保できるよう、活動内容や意義を明確にした事業展開を行う。		
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。						
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	昨年開館した水戸市民会館との共催事業を実施(開館記念16事業)。	市民会館との共催事業(年間10事業程度)を継続して行い、芸術による中心市街地の活性化を推進する。	水戸市民会館との共催事業を11事業実施した。(内、水戸京成百貨店を含めた事業は3事業)	水戸商工会議所の調査によると、水戸市の中心市街地の歩行者通行量は、令和4年度と令和6年度を比較すると週末で43%の増、平日は19%の増であった。当館と水戸市民会館、水戸京成百貨店で形成する「MitoriO」の連携が効果を発揮していると考えている。		
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	設置者の外郭団体の内、現職の管理職(事務局長)が派遣されている団体は当財団のみである。	設置者からの派遣体制を継続し、行政指導の経営改善および財源の確保を図る。	設置者からの派遣体制は今後の継続が決定している。 令和6年度市補助金:592,599千円 内事業補助:165,000千円 市委託金:250,437千円	財源の確保については概ね予算要求通り確保できている。 業務改革のための新規事業についても予算措置されるなど、設置者との連携が図れている。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。						
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。						
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。						
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	館長が令和6年2月以降、空席となっている。	新たな館長の選任。	令和6年10月に慶應義塾大学教授で評論家の片山杜秀が館長に就任した。	新たな館長の就任は、市民の関心も非常に高い。片山館長の幅広い知識を生かす企画事業の検討を始めた。		
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	令和6年度新規採用職員数3名。	持続可能な組織を目指し、若者層の雇用を図るとともに、定年延長によるベテラン層の活躍の場を推進する。	令和6年度プロパー年齢構成 60代:3人 50代:14人 40代:7人 30代:7人 20代:2人	令和6年度から職員の定年を段階的に65歳に延長する規則に改正した。給与改定を行い、若年層の賃金を向上した。		
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	現在、管理職は7人で内1人が女性管理職(17%)。一般職28人の内、女性は15人。	小規模な組織なので、役付登用はキャリアや年齢を考慮する。将来の目標数値は40%以上とする。	現在、管理職は7人で内1人が女性管理職(17%)。	令和7年度は2人の女性が役付職員に昇格した。管理職7人を含む13人の役付職員の内、女性職員は4人で30%であり、今後は管理職の割合が増す見込みである。		
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。						
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。						
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	令和2年度にハラスメント防止マニュアルを策定した。	令和6年度にハラスメントに関する研修会を開催する。	未実施。	安全講習などを優先した結果、ハラスメント研修については令和7年度に実施する。		
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。						

4. 総評

・ 団体の自己評価

【ミッション、ビジョン】
●本年度は5つのミッションの実現のために11のビジョンを設定し、その実現に向けて全ての事業を有機的に関連させて配置し、概ねその目標を達成することができた。

【専属楽団】
水戸室内管弦楽団
●99.8%という高い入場者の満足度を得て、さらに合計5本の専門家による概ね高評価の批評がマスコミに掲載され（水戸室内管弦楽団:『音楽の友』令和6年8月号、令和7年2月号、『モーストリー・クラシック』令和6年8月号、茨城新聞10月26日、読売新聞茨城版10月28日）、またNHKのテレビ番組、ニュース番組（全国放送を含む）5本でその活動が紹介された。これらの事実は、当楽団の創造性・企画性の高さについて客観的な評価を得ている証左であると考える。一方で国際的な広報活動は充分であるとは言えず、今後の努力目標である。
●小学生から一般までを対象に楽団メンバーによる器楽セミナーを継続的に行っており、そのセミナーはわが国の音楽大学の学生でもなかなか受講できないような講師の陣容である。その過去のセミナー受講者から令和6年度の人03「茨城の名手・名歌手たち」に2名の管楽器奏者がオーディションに合格し本演奏会に出演した。また、公01「水戸室内管弦楽団 子どものための音楽会」、普01「中学生のための音楽鑑賞会」等の楽団の人材養成事業および普及啓発事業の実施により、地域文化拠点機能の当初の目標の主要部について、果たすことができた。

新ダヴィッド同盟
●100%というこの上ない入場者の満足度を得て、さらに専門家による高評価の批評が『音楽の友』（令和7年3月号）に掲載された。また、芸術面では、庄司紗矢香をはじめとする楽団メンバーが尊敬するチェロ奏者スティーブン・イッサーリスをゲストに迎え、アンサンブルの彫琢を行った。これらのことにより、創造性・企画性の高さが目標通りに得られていると考える。
●平成22年の結成以来、音楽業界では大きな注目を集め、東京公演の開催が待ち望まれていたが、国際的に多忙を極めるメンバーの日程調整やヨーロッパのマネージメントの意向などにより、これまで実現ができなかった。しかし、令和6年に紀尾井ホールにて遂に東京公演を実現することができ、その模様はNHKによりテレビ収録され2月12日の「クラシック倶楽部」で放送され、多くの人々に楽団の演奏を届けることができた。

カルテットAT水戸
●室内楽の最重要ジャンルであるにもかかわらず、国際的にも聴衆が少ないのが弦楽四重奏という曲種であるが、その価値を広く市民に伝えていくことが、室内楽専用ホールである当ホールの大きな使命のひとつであり、その実践のために結成したのがカルテットAT水戸である。令和6年度の公演では、有料入場者数が目標値を大きく割り込み（64.5%→45.6%）、集客に対する達成度の低さが課題となっている。プログラムの工夫、広報活動の強化、メンバーによるアウトリーチや教育活動の拡充等により、創客の努力を地道に積み上げて行きたい。一方で、令和6年度公演の入場者の満足度は100%となっており、メンバーの高い演奏技術やアンサンブル能力に裏付けされた高い創造性・企画性が獲得できている。

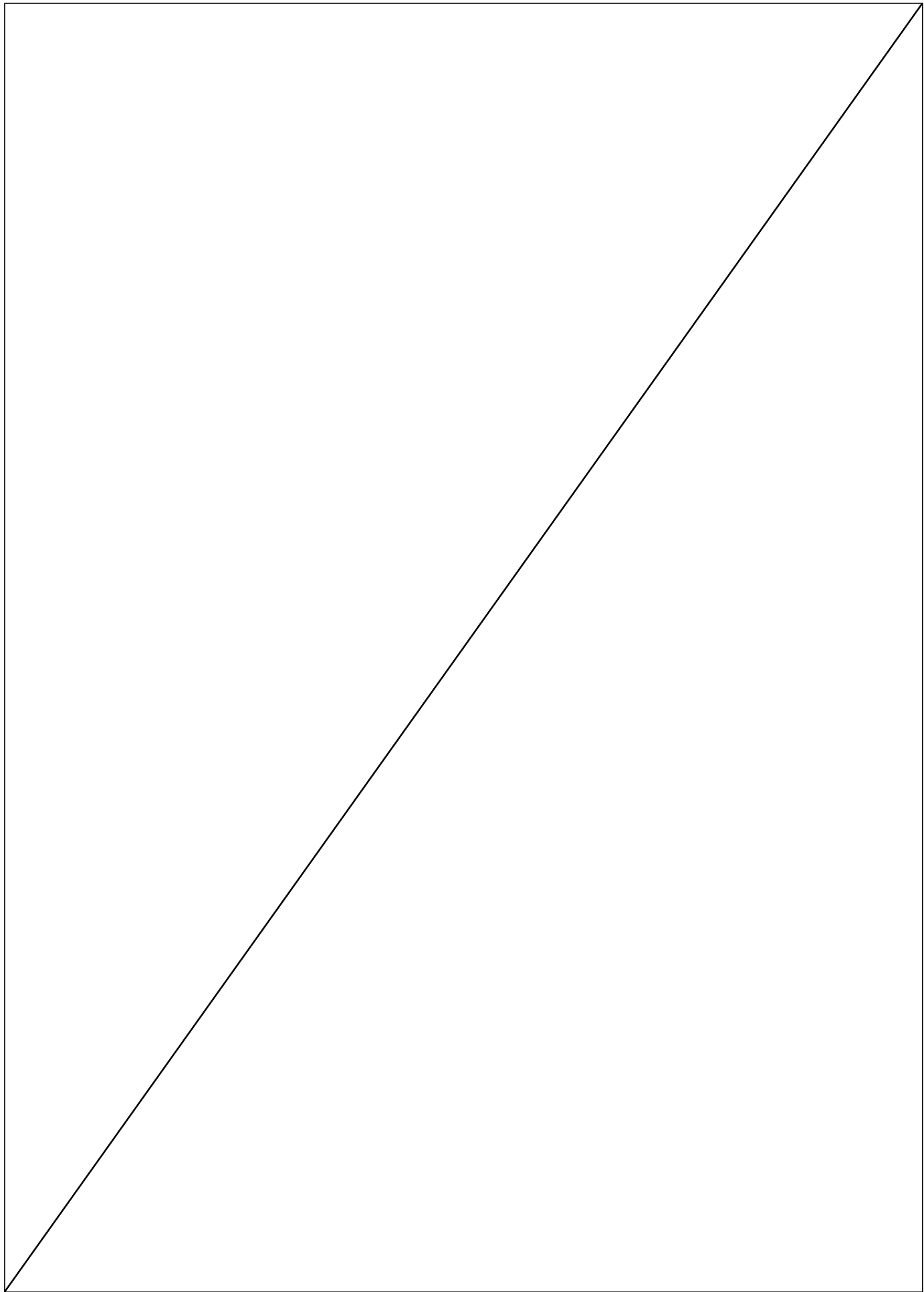
【専属劇団・劇場プロデュース公演】
●主にファミリー層、子ども向けの公演を充実化させることで、地域住民に舞台作品に親しみをもってもらうことに成功している。一方で、専属劇団の活動として、各プロデュース公演のメイン・キャストで出演すること、そして普及啓発事業、人材養成事業のスクール、地域交流プログラム等の講師、ファシリテーターとして活動すること、以上の活動で地域にレジデントする俳優としての役割を発揮できた。また、シェイクスピアの新翻訳の作品への挑戦、深作組と外部カンパニーとの協働にも先駆的な創造性を発揮することができた。今後は、館外公演も視野に入れていく。

【専属楽団・劇団以外の普及啓発事業・人材養成事業】
●コンサートホールATM（音楽部門）では、人02「市民のためのオルガン講座」および人03「茨城の名手・名歌手たち」で、市民の演奏技術の向上や演奏活動の場を提供し、普02「オルガン鑑賞プログラム」では、発達段階に応じた鑑賞プログラムを提供し、普04「300人の《第九》」では、10歳から90歳までの老若男女が市民合唱団を作り上げ地域コミュニティの創生が為されている。以上のことから、専属楽団による人材養成事業、普及啓発事業を含めて全体として地域の文化拠点としての機能を十分に果たすことができていると評価する。
●ACM劇場（演劇部門）の活動としては、公演事業、人材養成事業、普及啓発事業、以上をバランスよく実施できており、助成による成果が上がってきていると評価している。今後の事業展開として、公演事業、人材養成事業、普及啓発事業の3つの事業をひとつの円環となるように地域住民の観劇、参画、参加を促していきたい。令和6年度では、公演事業のシェイクスピアを取り上げたプロデュース公演で、人材養成事業に参画していた地域の子どもたちが成人し、アンサンブルとして出演するようになった。また、普及啓発事業のなかで親子対象のプログラムに参加していた子どもたちが人材養成事業に参画し始めている。こうした地域住民が舞台芸術の実演家として、演劇やダンスを生活のなかに取り入れてもらうことで、地域の中核劇場としての役割を担っていきたいと考えている。

【アクセシビリティの向上】
●令和6年度の事業を振り返り、目標値の到達に課題を残したのが、若年層や子育て世代など、あらゆる人々と実演芸術をつなぐアクセスビリティの強化である。社会包摂プログラムの拡充、福祉施設との連携強化などにより、課題の解消に努めたい。
●劇場の人材養成事業、普及啓発事業で、それぞれミュージカル、朗読・リーディングを展開しているが、公演事業のプロデュース公演でも、ミュージカル作品・音楽劇作品、そして朗読劇やリーディングを作品の核に据えた創作を明確に立案し、地域住民による劇場へのアクセシヴィリティを企画の面からも整備していく予定である。

【運営面】
●令和6年10月に片山杜秀が第3代館長に就任した。館長の下に音楽、演劇、美術の3部門の芸術監督、さらに各部門の専門性をもった職員（学芸員）が配置され、質の高い独自事業を展開するために、すべての企画を自主事業で行うという体制が1990年の開館以来、維持されている。水戸室内管弦楽団では、現在、小澤征爾前館長の後任の指揮者・総監督が不在となっているが、当楽団のアイデンティティは指揮者無しで演奏家たちが自発的に音楽を作る「大きな室内楽」であり、小澤の遺産の継承とともに、そのアイデンティティの保持を念頭に組織を再建し始めている。そして、小澤前館長に代わる指揮者については、今後、時間をかけて検討していこうと楽団メンバーとも話し合っている。

・所見





公 01 水戸室内管弦楽団 第113 回定期演奏会
(ピアノ独奏：マルタ・アルゲリッチ)



公 01 水戸室内管弦楽団 子どものための音楽会



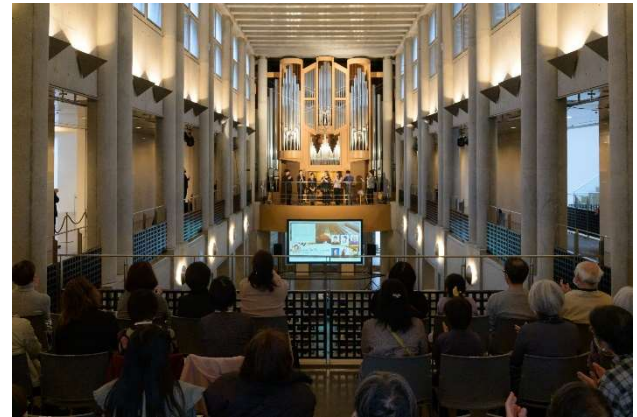
公 02 新ダヴィッド同盟



公 03 カルテット AT 水戸 (社会福祉法人ユースアイ村)



人 01 専属楽団メンバーによる器楽セミナー



人 02 市民のためのオルガン講座



普 02 0 歳からのわくわくオルガン



普 04 水戸の街響け！300 人の《第九》



公 07 【プロデュース公演】新しいシェイクスピア劇の創造事業



公 08 【プロデュース公演】ACM 劇場+深作組
＜ドイツ、ヒロインの物語＞



公 09 【専属劇団】ACM ファミリーシアター



公 10 【専属劇団】「ゆうくんとマツさん」新作公演と
おはなしキャリアボックス



人 04 未来サポートプロジェクト〈伝統芸能スペシャル〉



人 06 水戸子どもミュージカルスクール



普 06 朗読スタジオ



普 08 地域交流プログラム